

## 回廊開発を軸にした包括的支援を通じ地域の経済成長に貢献～メコン地域～

JICAはASEAN諸国を早くから地域共同体として捉え、①連結性の強化（東西・南部経済回廊構想実現への貢献、税関分野への支援）、②経済成長のための貿易・投資促進（電力網整備、投資促進、知財分野への支援）、さらに地域間の交流が行われることによる負のインパクトへの対応として③人間の安全保障・環境の持続性の確保（防災、感染症対策等）を柱

に国際協力に取り組んできました。

メコン地域では回廊開発を軸に様々な角度から、ハード・ソフトの両面で包括的に支援してきた結果、タイ、ベトナム、カンボジア、ラオスの1人当たりGDPが2000年から2013年にかけて2～4倍程度の成長を遂げることに貢献しています。

### ● メコン地域における主な回廊インフラ整備支援

施設整備／ハードインフラ	制度構築・技術移転／ソフトインフラ
<p><b>東西経済回廊</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2メコン橋 (有償資金協力)</li> <li>● 国道9号線 (無償資金協力)</li> <li>● ハイヴァントンネル (有償資金協力)</li> </ul> <p><b>南部経済回廊</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レムチャバン港 (有償資金協力)</li> <li>● ネアックルン橋(つばさ橋) (無償資金協力)</li> <li>● カイメップ・チーバイ港 (有償資金協力)</li> </ul>	<p>● 税関支援 (技術協力)</p> <p>ホーチミンーチェンナイ間の輸送時間239時間のうち、通関に要する時間は半分以上の127時間も占めるなど、通関手続の遅さが企業の活動上の大きな障害要因となっていました。そこで、タイ、ベトナム、カンボジア、ラオスにおいて、税関業務能力向上に係る支援を実施しました。</p> <p>● 投資促進支援 (技術協力)</p> <p>企業による積極的な投資につながるよう、「投資政策策定」、「投資促進機関能力強化」等について、投資促進アドバイザーの派遣を通じ支援しました。</p> <p>● インフラ運営管理のための能力強化 (技術協力)</p> <p>整備した道路・橋梁や電力施設等のインフラを適切に維持管理・補修するため、定期点検、補修技術、資産台帳作成等の技術移転を支援しました。</p>

● 各国空港を利用する旅客のうち、JICAの支援により整備された空港を利用する人の割合\*

● 各国港湾の貨物取扱量のうち、JICA支援で建設された施設での取扱量の割合\*



※出典：JICA「JICAのASEAN地域協力」

## —— ジャパンブランド ——

# 地域の力を引き出し経済成長を促進する 地域総合開発支援

## 回廊開発



多くの開発途上国では大都市が経済成長の牽引力となっています。

しかし都市部に開発が偏重し経済活動と人口が集中する一方で、地方やアクセス条件の悪い内陸部ではインフラ整備が進まず産業開発が停滞し都市との地域間格差が拡大しています。

JICAの回廊開発アプローチは国・地域の経済活動の中心となる重要幹線（回廊）を軸に据え

地域の産業ポテンシャルを見出しインフラ整備を通じて  
 地域全体の活性化を図ることで投資促進と市場拡大の好循環をつくり

持続的で強靱な成長力を生み出す戦略的な地域開発です。



日本発、また国際協力の現場で培われた、ユニークなノウハウ・経験・技術が、多くの開発途上国の現場で役立っています。これらの問題解決に有効な手法や事業モデルを国際協力における「ジャパンブランド」として世界に向けて発信し、活用を促進しています。



※SDGsの17の目標のうち、関連のあるものを表しています。

